

## 1989年出土の木簡



(大阪西北部)

## 兵庫・森北町遺跡

は、古墳時代中期の堅穴住居の他、西側の平安時代後期から室町時代の掘立柱建物群、東側の幅約一三m、深さ約一・五mを測る自然河川などがあげられる。

- |   |               |                  |
|---|---------------|------------------|
| 1 | 所在地           | 神戸市東灘区森北町三丁目     |
| 2 | 調査期間          | 一九八九年(平1)三月～七月   |
| 3 | 発掘機関          | 大手前女子大学内森北町遺跡調査会 |
| 4 | 調査担当者         | 藤井直正・川口宏海        |
| 5 | 遺跡の種類         | 集落跡              |
| 6 | 遺跡の年代         | 弥生時代～江戸時代        |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |                  |

森北町遺跡は、六甲山南麓の山手寄り、標高約一八mの地点に位置する。從来、弥生時代の集落遺跡として知られており、過去数次の調査がなされている。今

回の調査は、遺跡の推定範

囲の南端約八〇〇m<sup>2</sup>を対象として行つた。その結果、当遺跡としては初めての平安時代後期から室町時代を中心とする遺構・遺物を検出した。

この自然河川の埋土は、上層と下層に大別でき、上層からは一二世紀後半から一四世紀前半までの遺物が出土した。下層からは少量の弥生式土器、須恵器・土師器など古墳時代までの遺物の他、一一世紀後半から一二世紀前半にかけての遺物が大量に出土した。最も多いものは土師器(皿・甕・鍋等)で、次いで中世の須恵器(碗・鉢等)、楠葉型瓦器(碗)、中國製陶磁器(白磁碗・皿等)、綠釉陶器(碗・皿)、灰釉陶器(碗)などがある。中世須恵器碗には、「中」「吉九」(「中」為「淨」<sup>智九</sup>)などと墨書きされたものがある。これらの土器類とともに、最下層から呪符木簡二点と下駄、舟形木製品などが出土した。

## 8 木簡の釈文・内容

### (1) 「▽蘇民将来公□□□」

201×39×6 032

### (2) •「▽(符籙) 急々如律令

### 辰巳

(239)×48×6 039

この調査は、遺跡の推定範囲の南端約八〇〇m<sup>2</sup>を対象として行つた。その結果、当遺跡としては初めての平安時代後期から室町時代を中心とする遺構・遺物を検出した。

(1)は頭部に切込みがあり、下端部は平坦である。下半部は表面が荒れており、判読できない。

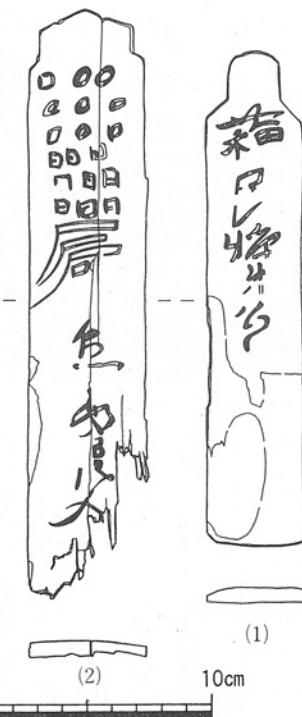
## 9

## 関係文献

川口宏海「神戸市森北町遺跡出土の呪符木簡」『いなの』№1 大

手前女子大学史学研究所文化財調査室（いなの）№2 大手前女子大学史学研究所文化財調査室（一九九〇年）

（川口宏海）

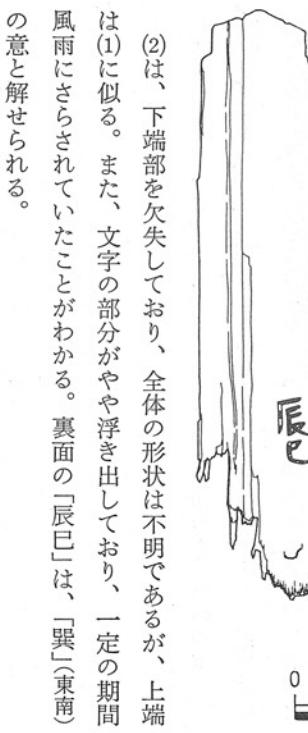


0

(2)

10cm

(1)



0

奈良国立文化財研究所編  
『平城京長屋王邸宅と木簡』

一九八六年から三年にわたって調査された平城京左京三条二坊及びその周辺の発掘調査概報。合せて一〇万点近くにのぼるかと見られる「長屋王家木簡」と「二条大路木簡」等も収録され、遺構・遺物についての現段階での成果が報告されている。

B5判、カラー図版三二頁、本文一八八頁

定価二九〇〇円、吉川弘文館 一九九〇年二月刊行

「蘇民将来」の呪符木簡例のうち、下端を平坦にする形態をもつものは、大阪府小曾根遺跡でも出土しており（本号八六頁）、一二世紀代と報告されている。時期的に近く、のちの下端を尖らせる形態のものと相違することが注目される。

木簡の判読については、奈良国立文化財研究所綾村宏・森公章両氏の御教示を得た。